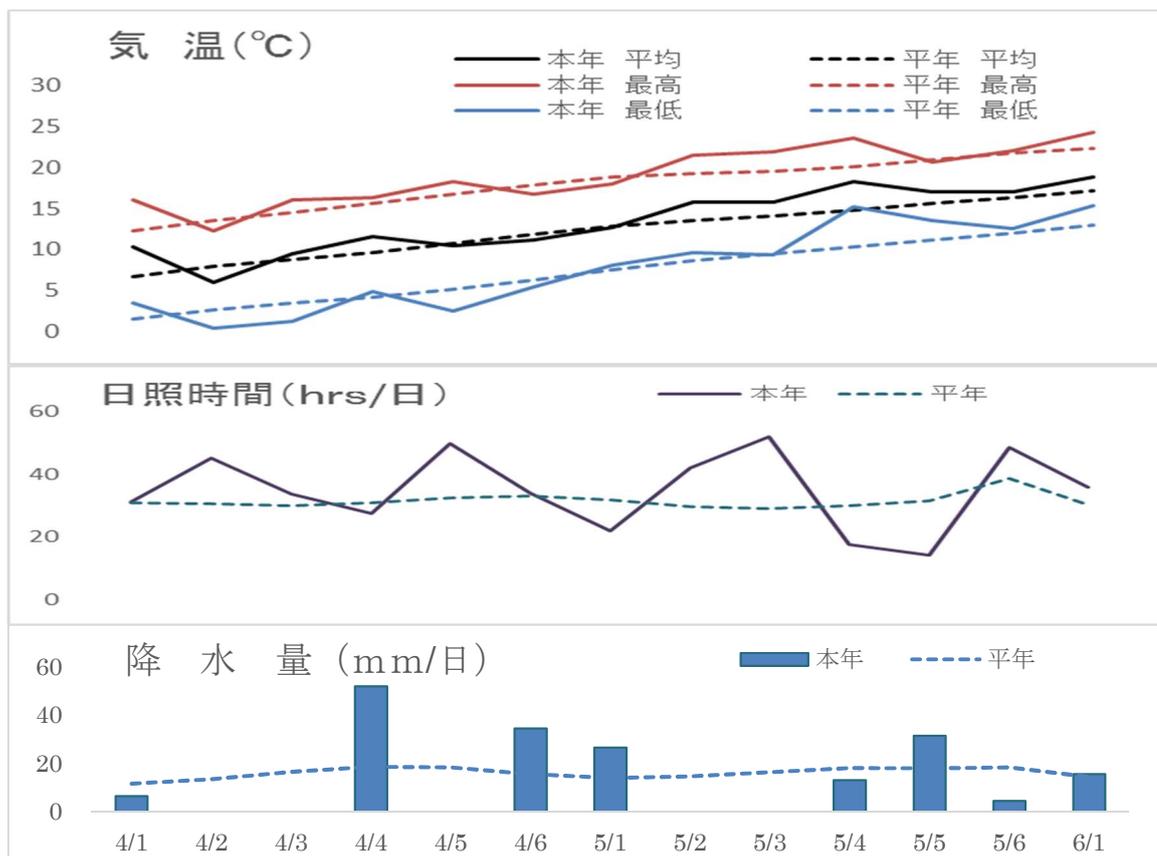


～田植後は高温傾向で推移し、活着及び初期生育は概ね平年並み～

### 1 令和3年の気象(古川アメダス)



#### 〔1か月予報:気温,降水量,日照時間の確率(%) 東北地方〕 6月5日～7月4日

・期間の前半は、数日の周期で変わりやすい。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%、並の確率30%、低い確率20%。降水量及び日照時間は、高い確率30%、並の確率40%、低い確率30%。

### 2 播種・田植状況

#### (1) 播種期(4月26日現在)

- ・県では、近年の茎数過多傾向や高温障害回避を踏まえ、田植えを遅くする「晩期栽培」を推進しているが、概ね平年並みの播種時期となった。
- ・晩期栽培を推進しているものの、現場ではなかなか普及拡大されていない状況である。

#### 播種期(県全体)

区分	播種始期 (5%)	播種盛期 (50%)	播種終期 (95%)
本年	4月2日	4月10日	4月22日
前年	4月2日	4月11日	4月23日
平年	4月3日	4月11日	4月21日

## (2) 田植進捗状況（5月27日現在）

- ・田植始期は平年より1日遅く、盛期は平年並みの5月11日となった。終期は平年より1日早い5月21日であった。5月第2半旬以降、高温傾向であったことと、育苗中の障害発生が少なかったことから、田植えが順調に進んだためと思われる。
- ・年次別に見ると、調査日の違いはあるものの、ほぼ平年並みの進捗率と思われる。

### 田植状況(県全体)

区分	田植始期 (5%)	田植盛期 (50%)	田植終期 (95%)
本年	5月4日	5月11日	5月21日
前年	5月4日	5月11日	5月23日
平年	5月3日	5月11日	5月22日
平年差	1日遅い	並	1日早い

### 田植進捗率の比較

区分	調査月日	田植進捗率 (%)
R3	5月6日	18.9
R2	5月7日	22.1
R元	5月7日	23.6
H30	5月7日	28.4
H29	5月8日	30.7
H28	5月6日	25.5

## 3 生育状況（6月1日）

- ・草丈は、24.6cmで平年比104%である。
- ・茎数は、㎡当たり105本で平年比91%となっている。
- ・葉数は、4.9枚で平年より0.4枚ほど少なく、数日遅れていると思われる。

県全体	草 丈		茎 数		葉 数	
	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	平年比 (%)	本年 (枚)	平年比 (枚)
	24.6	104	105	91	4.9	▲ 0.4

## 4 今後の管理

### (1) 適正な生育量確保

- ・浅水管理を基本とし、低温の日は5～6cmの深水で保温して、茎数を確保する。
- ・生わらや未熟堆肥を施用した水田では、一時落水等でガスの発生や土壌還元による生育抑制を防ぐ必要がある。

### (2) 雑草防除

- ・中期除草剤は、使用時期の幅が狭く、稲やノビエの葉齢に制限がある剤が多いので、ラベルをよく読んで処理する。
- ・薬剤の選定、使用にあたっては、最新の農薬登録情報を確認する。
- ・除草剤を使用する際は、止水期間を1週間程度とすることが効果のポイントである。
- ・直播栽培では、苗立ちが確保されたら時期を逃さず湛水して除草剤を散布する。

### (3) 病害虫の発生と防除（宮城県病害虫防除所発行 発生予察情報より）

- ・イネミズゾウムシやイネドロオイムシの発生は5月～6月上旬は高温傾向で推移しており、発生は平年よりやや早いと予報されていることから、適期の防除が重要である。
- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。

